

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス オレンジ			
○保護者評価実施期間	2024年10月1日 ～ 2024年12月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2024年12月1日 ～ 2024年12月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所内での情報共有	毎日行われる事業所内のミーティングでは時間をかけながら事例の検討を行う事ができる。 また前日からの引継ぎや、当日の流れなど、スタッフの情報共有が取りやすい環境が作れている。	継続して利用者の情報共有は時間をかけながら取り組んでいく。その中で
2	利用者の担当制にすることで、密な関りができる	利用者の担当制を持つことで、些細な変化に気づくことが出来る。また情報共有もしやすく、休みに日などの引継ぎもしやすい。 担当職員ばかりに情報が偏らないように、ミーティングの中で共有することもできている。	担当制に対応しながらも、どの職員も対応ができる体制は作っていく。そのためにはミーティングでの情報共有が大切となる。
3	活動を通し、普段体験ができない活動を取り入れる事ができる	制作活動や月ごとの行事ごとなど取り入れながら利用者に季節を感じてもらえる事ができている。また保護者へのプレゼント等利用者のサポートをしながら作ることができ喜んでもらえている。 クッキングも取り入れながら五感を感じてもらえる活動を取り入れている。	今後も季節の行事を交えながら活動内容の考えていく。また、普段行くことが出来ないドライブや外の活動など、外気に触れる時間も継続して作っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内のスペースの確保	利用者も高学年に多く、体格も大きくなるとともに、バギーの大きくなってきている。 事業所内での保管になると、圧迫感がある。	バギーの保管場所の検討 また事業所内の設備の見直し、スペースの有効活用の見直し
2	保護者へ事業所で取り組んでいることが伝わっていない	HPやお便りで報告しているが、うまく周知できていない。	H Pの周知を行い、日々の活動の取り組みを知ってもらう。 お便りにてQRコードを付けるなど、アクセスしやすいようにする。
3	地域とのつながり	地域の小学校や近くのサービス事業所など交友関係を築くことができていない。	併設した事業所の利用者との関りを通し、声や音の刺激を感じてもらう。利用者同士のふれあいを大切にしながら、合同での活動を取り入れていく。 またフレンドホームなどでの取り組みに参加するなど、外部の行事ごとへの情報も深めていく。